

18
未滿



Sacrifice

for adult only

弾劾とは
名ばかりの

恐怖から来る迫害——



同じ思いを
マスター^{貴方}だけには……





悪いけど
一人にして
くれないかな……



私は……
取るに足らない
田舎の小娘だった

それが
フランスの為と
闘い——
そしていつしか
魔女として
弾劾された

人類の為に一人で
戦う貴方を
否定するなら
魔術協会だろうが
人理継続保障機関
だろうが——
私が燃やすわ



貴方がそれで
いいっていうなら
別にいいけど……

なによ……
マスターったら
まるで——



駄目だよ
ジャンヌ
それこそ彼らが
怖がってる通り
じゃないか……

俺なら
大丈夫だからっ



まるで
生前の私ね……

——まっ
異端同士
傷を舐め合うのも
悪くないわね

ジャンヌ!?



私だってハラワタ
煮えくり返ってるの
我慢してるんだから

おとなしく
受け入れなさい



そして

本物のジャンヌは
どんな物語の聖女より
ずっと綺麗だったよ——



私みたいに
汚れた女で悪いけど
売春婦代わりには……

……ジャンヌっ



ジャンヌは……
綺麗だよ!

ジャンヌは
どんな伝記でも
伝説の聖女で……

ずっと
憧れてたんだ



ば……っ
馬鹿……

不意打ちは……
卑怯だ……

俺もジャンヌに
触れていい？

——触れたいんだ



……好きに
しなさいよ——

それじゃあ
……脱がすよ

本当に綺麗だよ



ジャンヌ……

私もう
駄目だ——

ああもう……



貴方に
優しい言葉を
かけられたら……

優しく
触られたら……

それだけで
感じてしまう——



はあ



キスだけで……

いつちやう……っ

はあ



はあ

もう——

ホント
ダメ……っ

マスターに
触られるだけで
イカされちゃう
じゃない——

はあ



何人もの男たちに
触られたけど

全然違う……

好きな人に
触られるのが

こんなに……



こんなに
気持ちいいもの
だなんて



ちゅ……

ちゅと!?!
どどどど
舐めてるのよ!!



初めて
だから……

痛くないように
ちゃんとしようと
思ってる……

ごめん

……好きにして
いいわよ

どうせさつきから
イカされまくりで
準備なんてとっくに
出来てるわよ——

馬鹿



すごい……

こんなに
濡れてる

と……

いつ……

いちいち口に
出すな！馬鹿！！



恥ずかしい恥ずかしい
恥ずかしい！違うの！
はしたない女じゃ
ないの！

貴方に
触れられるだけで
幸せなの！

……これ以上
され続けてたら
私をもたない
わよ——

いつまで
焦らすのよ
……



ジャンヌ……
大丈夫？

痛っ！



サーヴァントは
全盛期で召喚される
っていうから……

私がまだ
聖女だった頃の
肉体みたいね

——続けなさいよ馬鹿

死ぬ前の私は……
何人もの男に犯されて
燃やされて……

ずっと
苦しみと痛みに
耐えてきたのよ

でもこれは違う

愛しい男性と
結ばれる
喜びの痛み……

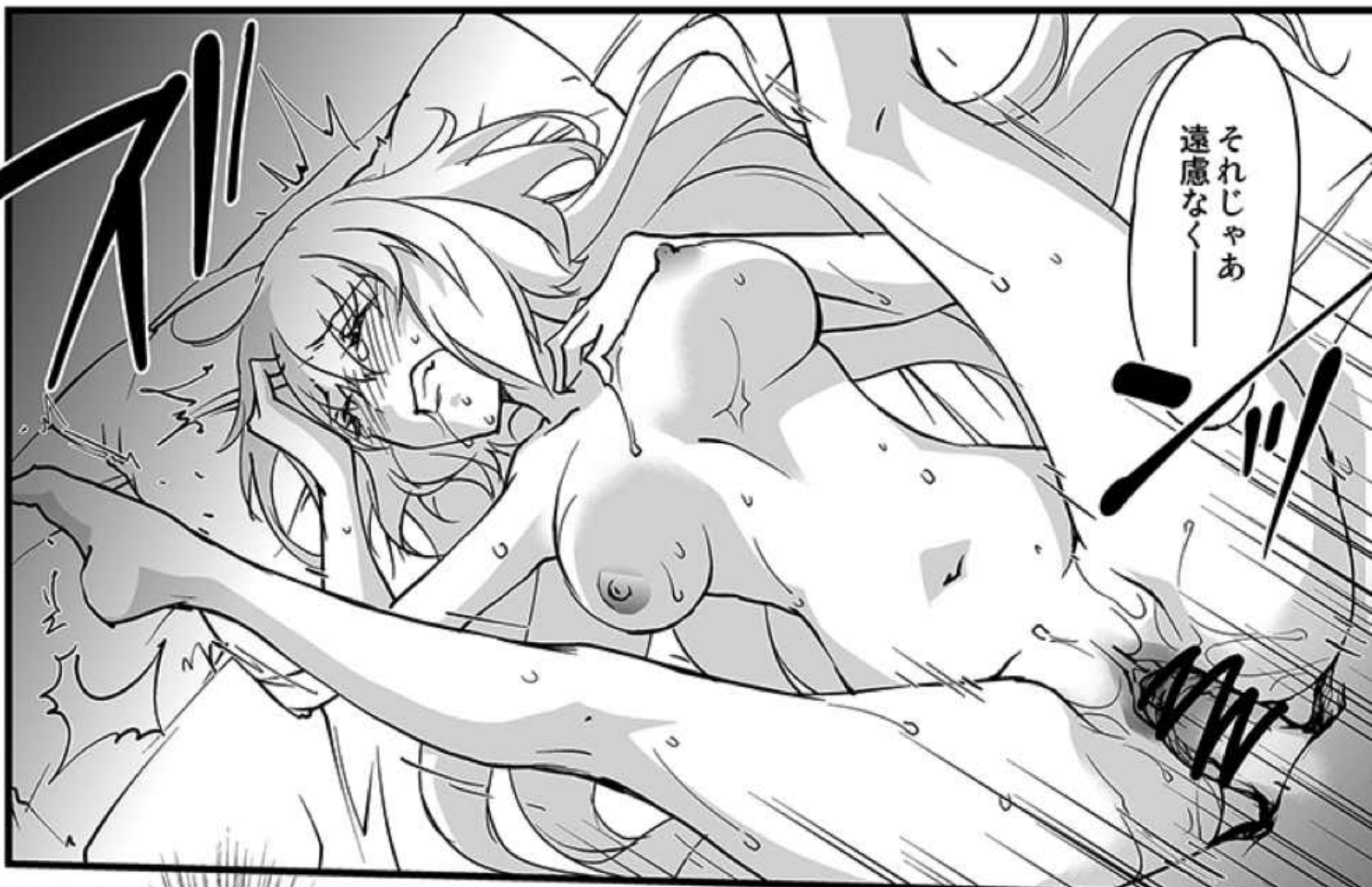
ずっと
欲しかった
痛みなの……

だからこのまま……
お願いマスター……



私は少しくらい無理して欲しいんですけど？

……わかった
でも無理しないでね
ジャンヌ



それじゃあ遠慮なく——



……っ
そ……うよ
そのまま……
奥まで——

馬鹿っ！

こっちは処女なんだから……っ

ちゃんと加減しなさいよ！！

あま——



顔に？

.....
イクなら.....
出来れば顔に
かけて欲しい
んだけど.....

くっ.....
ジャンヌー

ズッ

聖水みたいな
ものよ.....
貴方で
清められたい
から

わかった

それじゃあ.....
身体起こしてー





すごい……

愛情・快楽
慈愛・親愛……

マスターの色々な感情が
私に注がれている……

なんて気持ちの良さ
なのかしら——

はあ



ジャンヌ？
はあ

これが
マスターの……

ん……
んくっ

ジュジュ
ジュジュ

ジャ……
ジャンヌ!?



……ジャンヌ？

マスターの全てが

私の中に
入ってくる……

少しの間
こうさせて

私今ものすごく
幸せなんだから

ジュジュ
ジュジュ



ねえ
もう一回……
してもらっても
いい？

もう一回？



ジャ……
ジャンヌっ

ら……め♡

おぬ



ひゃっ!?
おぬ

ほう♡
ほれは
ほひいほ♡



ふふっ
もうこんなにも♡

おぬ

♡おぬ♡

ねえ……
今度はここに……

瞳内に頂戴？

もちろん！
今度はジャンヌの中で
イカせて欲しい

もっともっと
ジャンヌと繋がりたいし
ジャンヌが欲しい——

私もよ……
マスター——



あとは

私を……

マスターで
満たしてよ



それから
私とマスターは

何度もお互いを
求めあい……



何度目かの絶頂の後
私は意識を失った





あの日 輝かしい朝日の中
主の天啓を受け
世界を変えるために
歩き始めた私……

悔しくて悲しいけれど
障害は乗り越えられぬほど
高くそびえ
私には変えられなかった世界

私は燃え尽き
そして世界は少しずつ
変わった……

私同様 名も無く力もない
市民がその命を燃やし
少しずつ
少しずつ変えてきた——

私が初めて立ち上がった
あの日と同じ光

今度は平和になった
この世界を守る

変わらないように……
歩き始める

マスターと二緒に
この世界を守るのが
私の使命——